

港北区災害ボランティア連絡会 News



事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸13-1吉田ビル206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX 045-531-9561

FB 港北区災害ボランティア連絡会

122号

2023年11月



- *入会は随時受け付けています。
- *あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください。

～あなたはトイレを我慢できますか 第2弾～

セミナー開催のご案内

今年度も引き続きセミナーのお題はトイレ問題です。

2022年度は横浜市資源循環局・街の美化推進課担当係長、望月正毅(まさたけ)氏をお迎えし、横浜市のトイレ対策と各家庭でのトイレ備蓄について講演をしていただきました。

覚えていますか？おさらいしてみましょう！

- ✓ 建物内の水道管や排水管の損傷などによりトイレが使えなくなった場合、横浜市では地域防災拠点にてトイレパックやくみ取り式仮設トイレの他、下水直結式仮設トイレが準備されています。
- ✓ でもやっぱり自宅のトイレを使いたいですね。使用不可の時のための準備は、最低でも1日1人約5回分×3日分=15トイレパックが必要です。家族分用意するとすると皆様のお宅はいくつになるでしょう。
- ✓ 戸建てのおうちのトイレが使用可能かの判断は
 - ① 用をたすことなく一度水を流す
 - ② 建物内と家の周りを点検して水漏れ箇所がないかを確認
 - ③ 問題がなければ大丈夫だそうです。マンションなどの集合住宅では更に慎重に判断しなければなりません。難しい・・・。

今年度は日本トイレ研究所 (<https://www.toilet.or.jp>) の加藤篤氏を講師にお招きし、セミナーを行います。

日時：2024年1月28日(日) 9:30～12:00(講演時間 120分予定)

場所：港北区福祉保健活動拠点 多目的研修室 (港北区社会福祉協議会 3階)

★申込方法：※※※ 下記 Google フォーム または 事務局宛にお電話ください★
申し込み用Google フォーム (2次元コードからでも大丈夫です)

https://docs.google.com/forms/d/1O81yyCUHGiKWbSyXZW_bdXvF4PkM0qc7zj08Pf844nc/edit

「避難所と家庭の災害時のトイレ問題について」

- ・そもそもなぜ、災害時のトイレが問題なの？
- ・災害用トイレの選び方と使用方法は？
- ・過去の災害現場でどんなトイレ問題が発生しているの？

あまり大きな声で云うのは恥ずかしいけどトイレ問題って大変なことですね。



ご参加お待ちしております。 イベントタスク

災害時の困難度にも経済格差が

災害対策を進めるには、①その人の意識 ②対策を具体化する経済力が関係してきます。特に②の経済力はこの間の経済格差の拡大でいよいよ困難な人が増えています。阪神淡路大震災では古くて安い木造アパートに住んでいた大学生やお年寄りが多く命を落としたことを忘れてはなりません。

経済的に困難を抱える人の多くがひとり親家庭や独り者、高齢者です。これらの人々は経済的に苦しいだけでなく、地域との関わりも薄く、必要な支援情報が入らないケースが多く見られます。

菊名の居場所「あったか」ではこの4月からフードパントリーの活動を始めました。フードパントリーとは主に食料を必要な方々に無償提供する活動です。連絡会会員の鈴木さんも大倉山ミエルで既に活動しており、現在は40家族以上の利用があるそうです。「あったか」の活動も会員の室伏さんがサポートしている外国人ひとり親家庭に連絡してくれて5月から品物をお渡ししています。まだ日本語がうまく理解できないのでより細やかな支援が求められます。

困難を抱えている人や外国人への支援は

港北区にも多くの困難を抱えたご家族や外国人が多くいます。発災すればそれらの人々は普段からの備えが乏しいため避難所に向かうと思われれます。そのため避難所ではそれらの人々によりきめ細やかな対応が求められます。

- ・得られる法的支援の内容を説明する
 - ・多言語対応を早急に確立して確実な情報提供ができるようにする
 - ＝通訳ボランティアを呼びかける
 - ＝通訳アプリを利用する
 - ＝やさしい日本語を使う など
 - ・食事の内容に気を付ける＝ムスリムだとハラール食が必要かもしれません
- などの配慮が求められます。

(宇田川)

多言語翻訳—その後の調査・取材報告—

前号の編集後記に『携帯翻訳機ポケットークは、外国人だけでなく、「日本語→日本語」とすれば日本人ろう者にも情報伝達できます。避難所に備えては?』と、ろくに調べず自分の発見を書きってしまったので、その後の調査・取材結果を書きます。ポケットークの「日本語→日本語」は発売当初から多くのユーザーが発見しており、それをもとに「日本語→日本語」だけの製品「ポケットークmimi」が聞こえづらい方への情報伝達用に開発されました(現在は販売終了)。

ポケットークの「日本語→日本語」使用について詳しく解説しているサイトも見つけました。
<https://children-robot-school.com/pocketalk-written-conversation/>

また「VoiceTra」という無料多言語翻訳アプリを教えてくださいましたが、「日本語→日本語」の設定はできません。でも「日本語→日本語」だけの機能の無料アプリ「こえとら」があります。

では実際に使われている? 藤沢在住の知人によると、藤沢市役所の外国人相談を含む幾つかの窓口でポケットークを使っているそうです。また今年度、藤沢市内全80ヶ所の避難所にVoiceTraをインストールしたタブレットを備えたとのことでした。

港北区役所では? 総務課によると、戸籍課にポルトガル語とスペイン語と英語ができる職員が一人いて、必要に応じ他課の窓口に出向くとのことでした。翻訳アプリやポケットークは使っていないそうです。また、総務課に筆談器があり、必要に応じ他課に貸し出すとのことでした。

(室伏)

私の災ボラニュース配布日記

阪神淡路大震災から四半世紀！3.11にガン罹病。コロナ禍超えて、いまでも元気に杖をお供に歩いています。地域の方々に支えられたお蔭です。いのち輝く若き血潮と未来の担い手こどもたちと出会える未来があるまちです。

10年元気に配布ボラを続けるのが私の夢です。孫と幼保・小の人格形成期までは、元気に楽しく遊びたいです。

花と緑、ごみのない美しい田園学園都市。こども食堂など地域活動が盛んな美しいところを持つ人が住むまちです。大いにこのまちを歩いて、人生をエンジョイしたいです。

6月某日

午後3時半からバスで日吉東急へ。館内は快適です。東急日吉（守衛・設備・総務）2階・3階・地階のテナントに50部ほど配布。日吉東急は、東急百貨店でなく、専門店で貸している大家さんのイメージ。大規模複合施設であり、共同防火管理協議会の統括防火管理者は東急さんで、各専門店の防災管理者が地区隊としてその指示・命令系統に服する？現役時代を思い出しながら探索させていただきます。

日吉東急の館内には日中大勢の従業員・お客さまが在留。また日吉駅・目黒線・地下鉄で1日30万人の利用客が。相鉄線の乗り入れで更なる増加が。バスのターミナル・大型の駐車場もある。昼間に慶応の大学・中高で2万人。駅周辺に保育園・塾が集積。大半は住民票が日吉にない方ではないか。しかも地域と繋がりのない幼児とこどもたちが多いです。

8月1日から10日まで

下田エリアと日吉駅の普通部通りと浜銀通りから朝か夕方、雨天は避けてぼちぼち配布しています。

8月7日からリハビリ特化型デイサービスに週一通う。体重が4キロ程度減少して足の力が衰え体幹の左右のバランスが悪く転びやすいとの理学療法士のご神託。台風・熱中症・転倒リスクを恐れてホームステイをこれ以上続けると要支援から介護ステージに移行する可能性大。これからも熱中症に注意しながら、配布を続けるつもりです。

(児島)

防災コラム 災害支援用語集・サイガイペディア

ネットでこんなものを見つけました。災害業界用語を理解するのに便利です。

災害支援の現場では、固有の用語や制度名、それらの省略表現、平時では接点の少ない災害支援団体の名前などが飛び交います。

サイガイペディアは被災地となり災害支援に初めて取り組むこととなった地域の自治体職員の方や支援活動を行うこととなった民間組織の皆さんが用語の理解ができないことで話についていけなくなることをなくし、災害支援の現場が円滑にまわることを目指して立ち上げました。

災害支援の現場は常に変化をしており、制度や支援策も新しいものが追加されています。そのため、新たな用語の書き込みやすすでに掲載されている用語への加筆や修正もできるようなサイトとして作成しました。

また、各用語も公式的な定義の文章ではなく、支援者にとってわかりやすい説明を掲載することを重視することにしています。

そして、支援活動に取り組む人みんなで作っていくサイト、災害支援版のウィキペディアを目指しています。（サイガイペディアHP<https://saigaipedia.jp>より転載）

(宇田川)

2023年度防災・減災カレッジ 受講内容から（その1）

あいち・なごや強靱化共創センター主催の「2023年度防災・減災カレッジ」を受講しました。今回から何回かにわけて、受講内容から皆さんの参考になりそうな話題・目から鱗の話題などをいくつかご紹介したいと思います。

今回は、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院・稲田眞治救急科部長兼救命救急センター長のセッションからのご紹介です。

2007年新潟中越沖地震の際には、発災後4時間程度は119番への入電数の5%から15%程度しか救急隊の派遣ができていなかったそうです。発災時においては、救急隊や医師についてもまず「自

身の安全の確保（出動時の装備や準備を含め）」や「現場の安全の確認」が優先事項であり、なんの準備も情報もなく出動できるものではなく、ある程度の時間はかかるということです。「単に熱意があるというだけで現場に入って活動してはならぬ。現場で活動するには、それに相応しい知識と、装備が不可欠。」ということの徹底をはかられているそうです。よく考えてみると、あたりまえのことですよ。

もちろん、災害時の体制構築は年々進んでいて、災害派遣医療チーム（DMAT）の整備などで、いち早く被災地に適切な医療チームが派遣される体制も整備されています。

しかし、大規模災害時には医療機関自体も被災します。東日本大震災の時は、岩手・宮城・福島3県の災害拠点病院33箇所の内、31箇所が建物に被害を受け、被災直後は20箇所です。その上、医療関係者も「被災者」となります。

一方で傷病者数は平時の10倍・20倍・50倍・100倍・・・に上ります。

- ▶ 大規模災害時に救急車は、おそらく来ません
- ▶ 病院は被災していなくても、平時の10倍・20倍・50倍・100倍・・・に上る患者で溢れかえり、受付でのトリアージが発生し、簡単に医療サービスを受けることはほぼ不可能になります
- ▶ 街中の診療所の医療関係者は、ほとんどが避難所の「救護所」対応で手一杯になることが予想されます

と話されていました。そこで大切なことは

- ▶ 避難する
- ▶ 家具の固定・耐震化などをしっかり行なって、自宅で怪我をしない
- ▶ 火事をださない
- ▶ 備蓄をしっかりとる
- ▶ 一般的な応急処置ができるよう、日本赤十字社や消防署主催の講習を受講しておくことだ。

まして、今いわれている「南海トラフ地震」が発生したときは、「医療支援」は機能しないおそれが十分あるということです。

（中島）



【編集後記】

- ✓ 防災コラム「サイカイペディア」は大変参考になりました。今までに、そのままにしていた言葉を理解するのにとても役立ちます。学習不足を反省します。（付岡）
- ✓ 10月に入り、火事のニュースが多くなっているように感じます。統計的にも火事が起きやすい季節ですので、火の扱いに気をつけたいと思います。（鴨下）
- ✓ 統計調査によると、在日外国人で英語が解る方は半数いませんが、少しでも日本語が解る方は半数を大きく超えています。日本語が母語の方には是非「やさしい日本語」を知ってほしいです。ネットで「やさしい日本語」を検索してみてください。（室伏）
- ✓ 防災・減災カレッジで3回の受講を終えました。参考になる話がたくさんありました。また、セッションはとても聴きやすかったです。（中島）